

特集 災害復旧工事の完工 そして排水機能強化へ着工

令和元年佐賀豪雨および令和3年8月豪雨で甚大な被害を受けた大町の浸水被害を軽減するため、佐賀県の内水対策プロジェクト(プロジェクトIF)の一環で「下湯排水機場」の機能強化が進められています。

今回の特集では「プロジェクトIF」の取り組みの一部について紹介します。

内水を **流**す排水機場の機能強化

下湯排水機場は、令和3年8月豪雨による浸水で機能が停止していましたが、「排水ポンプ設備」の復旧工事や「止水壁の設置」「施設の^{かさ}嵩上げ」などの耐水化工事が完工し、稼働を再開しました。

また、遠隔操作の機能が追加され、大雨が降った際、操作員が安全な場所からポンプなどを操作できるようになりました。



③遠隔操作設備

①止水壁

耐水化のポイント

想定される最大規模の豪雨でも浸水被害を防止し、継続して排水機能を発揮するため以下の耐水化が行われました。

①止水壁の設置 整備状況：完工

令和元年度には約90cm、令和3年度には約1m50cmの浸水となったことから、六角川で想定される最大規模の浸水が発生しても、排水機場の稼働が継続できるように2m30cmの止水壁が設置されました。



▲着工前



▲完成(止水壁設置)

②除塵機の嵩上げ 整備状況：完工

排水機場が稼働する際には流木などのさまざまなごみが流入してきます。

排水ポンプがスムーズに水を吸い込むため、流れ着くごみなどをベルトコンベアで取り除く設備である「除塵機」の嵩上げが行われました。



▲着工前



▲完成(除塵機嵩上げ)